

Kansai Economic Insight Monthly

2021/6/22

Vol.98 May/June

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼ レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼ 執筆者は、稲田義久(甲南大学名誉教授、APIR 研究統括兼数量経済分析センター長)、木下祐輔(APIR 調査役)、豊原法彦(関西学院大学教授)、郭秋薇(APIR 研究員)、野村亮輔(APIR 研究推進部員)、吉田茂一(APIR 研究推進部員)、車競飛(APIR インターン)です。

▼ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI,CLI	2
COVID-19 モニター	3
生産・労働関連	4
内需関連	7
センチメント	10
外需関連	11
中国景気モニター	13
主要月次統計	17
Release Calendar	18

要旨

景気は足下、先行きともに改善：

先行きの個人消費回復のカギを握るワクチン接種の進捗

- ✓ 関西のCOVID-19の1日当たり新規感染者数(7日移動平均)は、4月末にピークアウトし、5月以降減少。足下では「感染第4波」は収束に向かっている。
- ✓ 4月の鉱工業生産は生産用機械や汎用・業務用機械などの増産もあり、2カ月ぶりに前月比上昇したものの、4-6月期の最初の月としては低調である。
- ✓ 4月の完全失業率は4カ月ぶり、有効求人倍率(受理地別)は2カ月連続の前月比悪化。3度目の緊急事態宣言発令で経済活動が抑制されており、雇用への下押し圧力が見られる。
- ✓ 3月の関西2府4県の現金給与総額は名目で20カ月ぶり、実質で3カ月連続の前年比増加。パートタイム労働者比率が4カ月連続で低下したために、1人当たり賃金が押し上げられたと見られる。所得環境の本格的な回復は道半ばである。
- ✓ 4月の大型小売店販売額は2カ月連続の前年比増加。ただし、コロナ禍の影響がない前々年と比較すると、販売額は依然低水準である。今月は感染拡大と緊急事態宣言再発令により、百貨店を中心に前月より販売額が縮小した。
- ✓ 4月の新設住宅着工戸数は3カ月連続の前月比増加。持家の回復と貸家の大幅な増加が全体の上昇に寄与した。
- ✓ 4月の建設工事出来高は関東が15カ月連続で前年比減少する一方、関西は37カ月連続で増加した。5月の公共工事請負金額は2カ月ぶりの前年比増加となった。
- ✓ 5月の景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月ぶりの前月比改善。新規感染者数の減少や休業要請の一部緩和が影響した。先行きはワクチン接種普及等の期待から3カ月ぶりに改善した。
- ✓ 5月の輸出は3カ月連続、輸入は4カ月連続の前年比増加。堅調な回復を見せるものの、前々年同月比では輸入は減少している。ただし、欧米からの医薬品輸入の増加が続く。
- ✓ 5月の関空への外国人入国者数は2,001人と前月(2,341人)から減少。入国制限が続いているため、入国者数は底這いでの推移が続こう。
- ✓ 5月の中国の貿易収支は15カ月連続の黒字となったが、輸入の増大もあり4カ月連続で前年比縮小。また、企業のセンチメント、工業生産指数などは前月から幾分回復したが、社会消費品小売総額は前月から減速した。

【関西経済のトレンド】

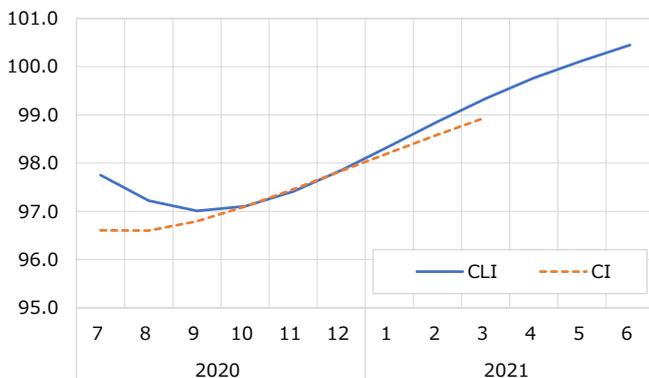
	2020年							2021年				
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
生産	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↘	↗	
雇用	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↘	↘	
消費	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↗	
住宅	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↗	
公共工事	↗	↘	↘	↗	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↗
センチメント	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↗
貿易	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗
中国	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↗	↗	↗

(*トレンドの判断基準)

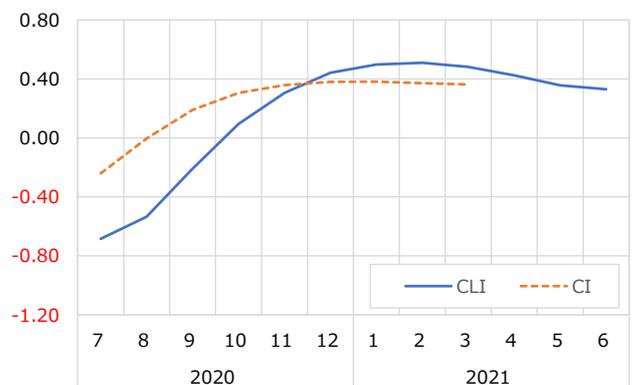
- ・ **生産**：近畿経済産業局『近畿地域域工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI 一致指数・CLI)の推移】

直近1年間のCI・CLIの推移(2020年7月～21年6月)



直近1年間のCI・CLIの前月差(2020年7月～21年6月)



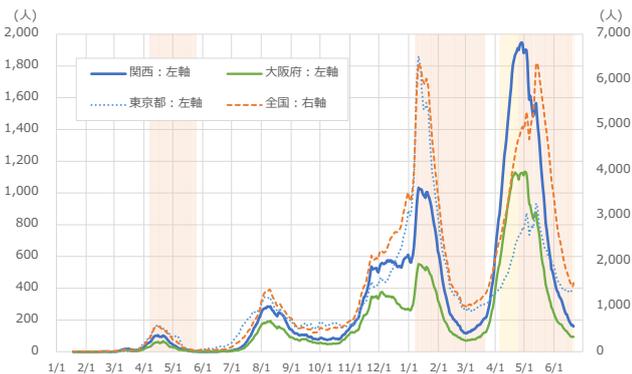
(注)指数は2013年1月～21年3月までのデータで計算されている。

【COVID-19 モニター】

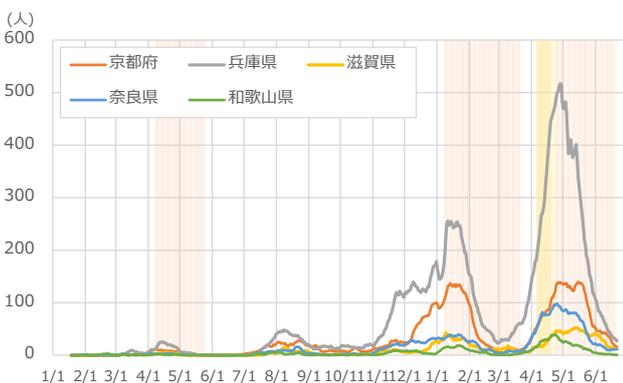
関西における COVID-19 の 1 日当たりの新規感染者数(7 日間後方移動平均、最終更新日：6 月 21 日)は、4 月末にピークアウトし、5 月以降は減少傾向で推移している。直近の 6 月 21 日には 160 人となり、「感染第 4 波」の初期である 3 月 12 日の水準(155 人)まで減少した。

関西各府県の動向を見ても新規感染者数は減少している。特に大阪府では、5 月初旬こそ 1 日当たりの新規感染者数が 1,000 人を超える日が続いていたが、足下では 93 人まで減少している。また、兵庫県でも 5 月初旬は 500 人を超える高水準だったが、足下では 27 人まで減少した。その他の府県についても、ピークの時期は異なるものの、いずれも新規感染者数は減少している。

全国と関西の新規感染者数の推移(2020 年 1 月～21 年 6 月 21 日)



関西の新規感染者数(除く大阪府:2020 年 1 月～21 年 6 月 21 日)



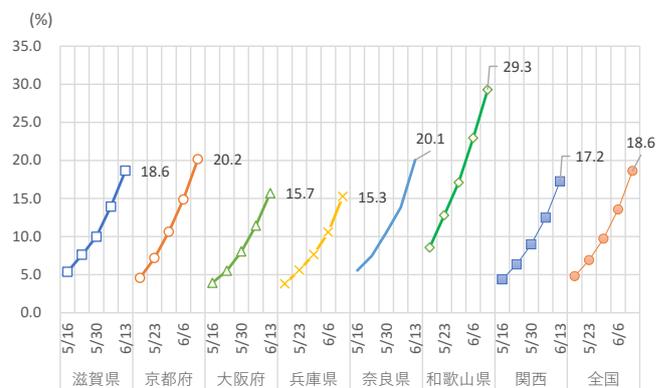
(注) 後方 7 日間移動平均。赤色のシャドー部分は緊急事態宣言、黄色はまん延防止措置実施期間。

(出所) 厚生労働省発表資料等より作成

4 月 25 日に東京都、京都府、大阪府、兵庫県の 4 都府県に三度目の緊急事態宣言が発令された。大型商業施設や遊園施設、飲食店への休業要請など前回から対策が強化されたこともあり、足下では「感染第 4 波」は収束に向かっている。こうした状況を受け、政府は沖縄県を除く 9 都道府県について、6 月 20 日の期限をもって緊急事態宣言を解除した。そのうち、東京都や大阪府などの 7 都道府県では、6 月 21 日からまん延防止等重点措置へ移行した(期限は 7 月 11 日まで)。大阪府や京都府では市内の飲食店は午後 7 時まで、町村部では午後 8 時までの営業時間短縮が要請されており、サービス消費への下押し圧力は続くと思われる。

こうした中、今年 2 月以降、日本国内でワクチンの接種が開始されている。6 月 13 日時点における関西 2 府 4 県のワクチン接種状況を見ると、関西 2 府 4 県のワクチン総接種回数は医療従事者と高齢者の合計で 356.6 万回、総人口に占める比率は 17.2%となっており、全国の 18.6%をやや下回っている。府県別に見ると、和歌山県が 29.3%と約 3 割に達している。一方、人口が多い大阪府では 15.7%、兵庫県では 15.3%、京都府では 20.2%となっている。既に都市部における大規模接種や職域接種が順次開始されていることから、**ワクチン接種が加速**することで、将来の新規感染者数の減少や、**消費者センチメントの改善による消費の拡大**などが期待される。

関西と全国のワクチン総接種回数(2021 年 6 月 13 日時点)



(注) 医療従事者と高齢者合計。初回・2 回目を含む。対人口比。

(出所) 首相官邸 HP より作成

【生産・労働関連】

(1) 生産動向

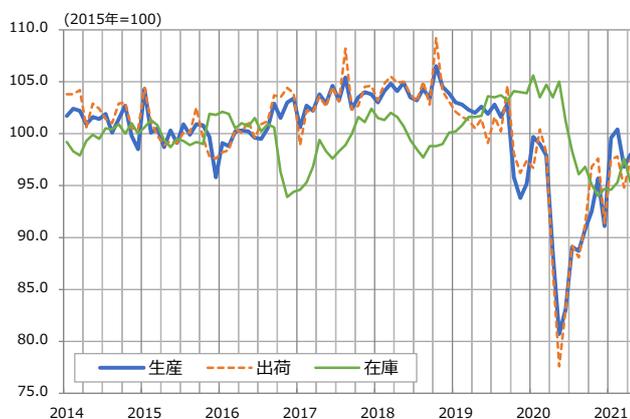
関西4月の鉱工業生産動向(速報値:季節調整済、2015年=100)を見ると、生産は98.0で前月比+1.2%であった。生産用機械や汎用・業務用機械などの増産もあり、2カ月ぶりに上昇した。近畿経済産業局は同月の基調判断を「回復を続ける」と3カ月連続で据え置いた。1-3月平均比では-0.9%低下した。4-6月期の最初の月としては低調である(1-3月期:前期比+6.3%)。

業種別にみると、増産となったのは、生産用機械工業(前月比+12.0%、2カ月ぶり)、汎用・業務用機械工業(同+9.2%、2カ月ぶり)、電気・情報通信機械工業(同+3.6%、3カ月ぶり)等であった。一方、減産となったのは、電子部品・デバイス工業(同-8.6%、2カ月連続)、石油・石炭製品工業(同-27.3%、5カ月ぶり)、輸送機械工業(同-2.9%、2カ月連続)等であった。電子部品・デバイス工業は前月の大幅落ち込み(同-18.1%)からマイナス幅は縮小したものの、伸びは低調である。

なお、生産と強い関係がある日銀の実質輸出(季節調整済、2015年=100)を見ると、4月(確報値)は123.4で前月比+6.5%と2カ月連続のプラスであった。

4月の出荷は97.5で前月比+2.8%と2カ月ぶりに上昇し、在庫は95.3で同-2.4%と3カ月ぶりに低下した。

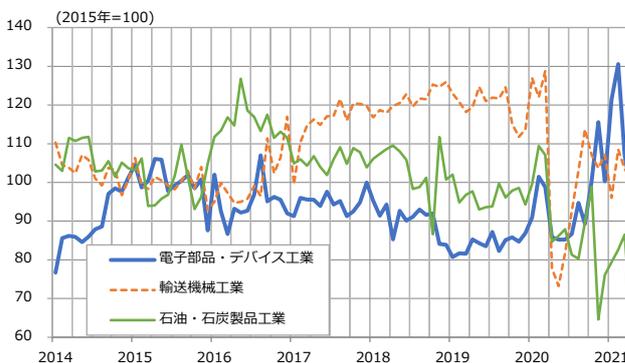
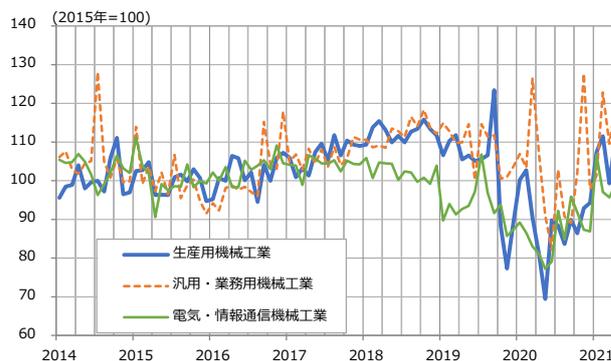
関西の鉱工業生産動向の推移(2014年1月~21年4月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2014年1月~21年4月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

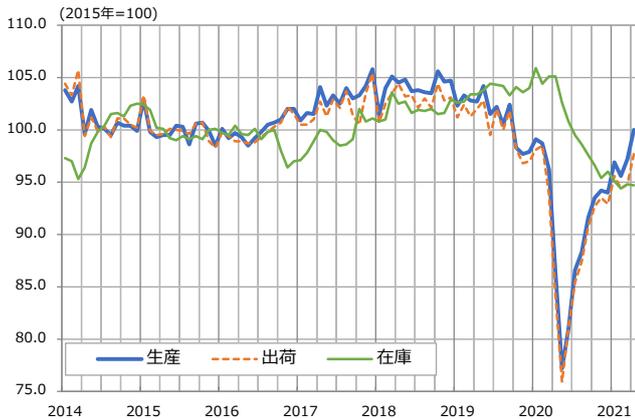
全国4月の鉱工業指数(確報値:季節調整済、2015年=100)を見ると生産は100.0で、前月比+2.9%となった。2カ月連続で上昇し、生産水準はCOVID-19拡大前の20年1月(99.1)を上回った。1-3月平均比では+3.6%上昇した(1-3月期:前期比+2.8%)

業種別にみると、増産となったのは汎用・業務用機械工業(前月比+15.7%)、電気・情報通信機械工業(同+10.4%)、生産用機械工業(同+7.7%)等であった。一方、減産となったのは、自動車工業(同-1.0%)、輸送用機械工業(除、自動車工業)(同-4.6%)、プラスチック製品工業(同-0.8%)であった。

4月の出荷は97.7で前月比+3.1%と2カ月連続で上昇。在庫は94.7で同-0.1%と2カ月ぶりに小幅低下した。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、5月は前月比-1.7%と減産が、6月は同+5.0%と増産が予測されている。

全国の鉱工業指数の推移(2014年1月~21年4月)

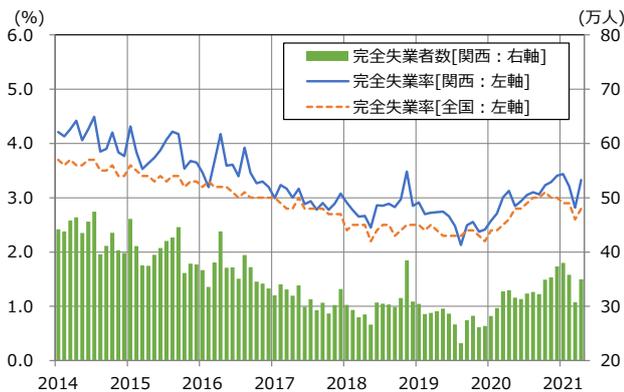


(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(2) 完全失業者数と就業者数

関西4月の完全失業率は3.3%と前月差+0.5%ポイント上昇し、4カ月ぶりの悪化(以下の関西の数値は注記が無い限り季節調整値ベース:APIR推計)。労働力人口は1,083万人で同-23万人と3カ月ぶりの減少、非労働力人口は714万人で同+21万人と3カ月ぶりの増加であった。また、就業者数は1,048万人で同-28万人と3カ月ぶりの減少。完全失業者数は35万人で同+4万人と3カ月ぶりの増加であった。労働力人口の減少幅を就業者数の減少幅が上回り、完全失業者数は増加した。3度目の緊急事態宣言発令で経済活動が抑制されており、雇用への下押し圧力が見られる。

完全失業率の推移(2014年1月~21年4月)



(出所)総務省「労働力調査」

全国4月の完全失業率(以下、季節調整値)は2.8%と前月差+0.2%ポイント上昇し、6カ月ぶりの悪化。労働力人口は

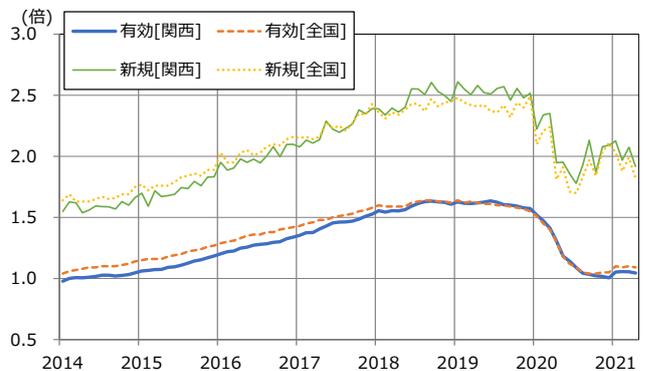
6,862万人で同-3万人と2カ月連続の減少。非労働力人口は4,175万人で同-6万人と2カ月ぶりの減少であった。また、就業者数は6,658万人で同-26万人と2カ月連続の減少。完全失業者数は194万人で前月から+14万人増加、4カ月ぶりの悪化であった。

(3) 求人倍率

関西4月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.04倍で前月差-0.01ポイントと2カ月連続の小幅悪化であった。有効求職者数が増加(同+2.6%、2カ月連続)し、有効求人数の増加幅(同+1.6%、2カ月連続)を上回ったため。

4月の有効求人倍率(受理地別)を、府県別に高い順から見ると、奈良県は1.18倍(前月差+0.03ポイント)、大阪府は1.10倍(同-0.04ポイント)、和歌山県は1.08倍(同+0.02ポイント)、京都府は1.05倍(同+0.05ポイント)、兵庫県は0.93倍(同-0.01ポイント)、滋賀県は0.91倍(同+0.01ポイント)となった。滋賀県では12カ月連続、兵庫県では10カ月連続で1倍を割り込む状態が続いている。

求人倍率(受理地別)の推移(2014年1月~21年4月)



全国と関西2府4県の有効求人倍率の比較

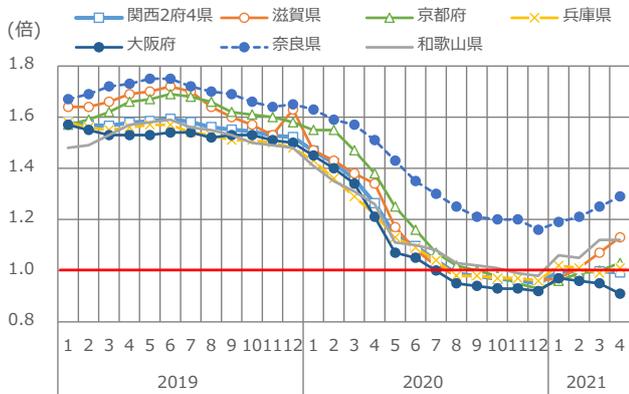
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
3月	1.10	1.05	0.90	1.00	1.14	0.94	1.15	1.06
4月	1.09	1.04	0.91	1.05	1.10	0.93	1.18	1.08
前月差	▲0.01	▲0.01	0.01	0.05	▲0.04	▲0.01	0.03	0.02

(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

また、職場別に集計した就業地別の有効求人倍率を見ると、関西4月は0.99倍で前月差-0.00ポイントと小幅だが4カ

月ぶりの低下であった。特に大阪府では、0.91 倍となり 3 カ月連続の低下。他府県と比較して悪化が顕著である。

有効求人倍率(就業地別)の推移(2019年1月～21年4月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

雇用の先行指標である新規求人倍率をみると、関西4月は1.92 倍で前月差-0.16 ポイント低下し、2 カ月ぶりに悪化した。新規求人数が前月比-5.7%と2 カ月ぶりに減少し、新規求職者数の増加幅(同+2.0%、3 カ月連続)を上回ったため新規求人倍率は低下した。

4 月の新規求人数(原数値)は、前年同月比+12.4%と16 カ月ぶりの増加。全ての業種で前年同月から増加したが、コロナ禍の影響による反動増の側面が大きい。そのため、前々年(2019年)同月比で見ると、-24.0%と依然2桁のマイナスとなっている。特に宿泊・飲食サービス業(同-38.7%)、卸・小売業(同-35.6%)など、感染防止対策の影響が大きいサービス業で弱い動きが続いている。

全国4月の有効求人倍率(季節調整値)は1.09 倍で前月差-0.01 ポイントと2 カ月ぶりの小幅悪化。新規求人倍率は1.82 倍で同-0.17 ポイント低下し、2 カ月ぶりの悪化であった。

(4) 現金給与総額

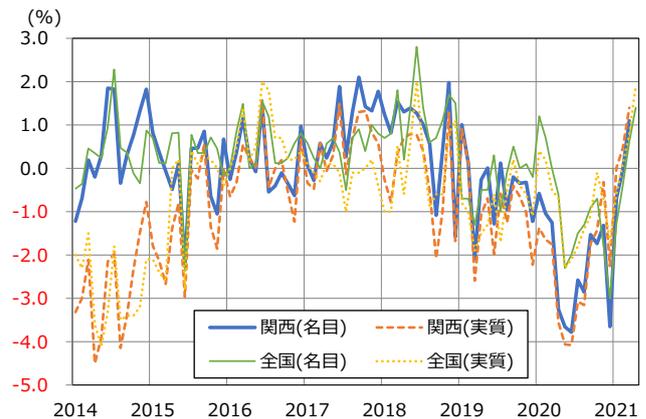
関西2府4県の3月の現金給与総額(APIR 推計)は27万5,643 円で前年同月比+1.1%増加し20 カ月ぶりの改善(前月:-0.0%)。結果、1-3 月期は前年同期比+0.1%と10 四半期ぶりの小幅増加であった。

府県別に増加幅の大きい順に並べると、和歌山県は前年同月比+6.5%(3 カ月連続)、大阪府は同+1.7%(2 カ月連続)、京都府は同+0.9%(3 カ月連続)、兵庫県は同+0.6%(15 カ月ぶり)であった。一方、滋賀県は同-1.7%(2 カ月連続)、奈良県は同-4.9%(4 カ月連続)と、それぞれ減少した。

また、物価変動の影響(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた関西2府4県の実質現金給与総額(実質賃金)は、3月は前年同月比+1.4%で3 カ月連続の増加となった。1-3 月期の実質賃金は+0.6%と11 四半期ぶりの増加であった。

3月の関西2府4県の所定外労働時間は前年同月比-8.3%減少。マイナス幅は前月(同-13.3%)から縮小したものの、前々年比では-14.7%(3月:同-14.0%)となっており、依然厳しい状況が続いている。

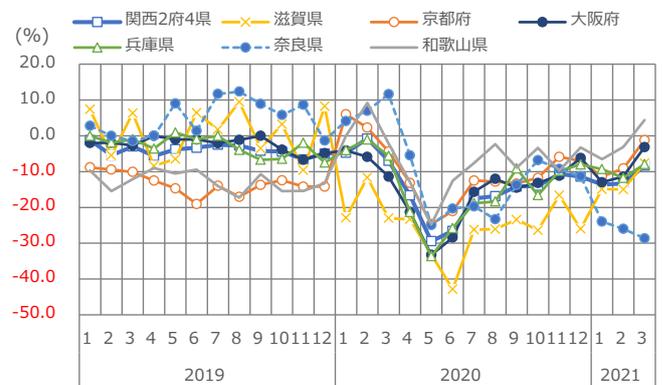
現金給与総額の推移(前年同月比: 2014年1月～21年4月)



(注)関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2017年平均)で加重平均。

(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成。

所定外労働時間指数の推移(前年同月比: 2019年1月～21年3月)



(出所)関西2府4県の自治体の公表資料より作成

3月の関西2府4県の常用労働者数は前年同月比-0.2%と12カ月連続の減少。うち一般労働者は同+0.9%と、2カ月連続の増加。一方、パートタイム労働者は同-2.0%と11カ月連続の減少。結果、パートタイム労働者比率は34.9%と前年同月から-0.7%ポイント低下し、4カ月連続のマイナス。賃金水準が低いパートタイム労働者比率が減少したことで、1人当たり賃金が押し上げられたと見られる。所得環境の本格的な回復には道半ばであるといえよう。

関西の常用労働者の動向(前年同月比: 2019年1月~21年3月)



(出所)関西2府4県の自治体の公表資料より作成

全国4月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比+1.4%と2カ月連続の増加。所定内給与は同+0.8%で4カ月連続の増加。所定外給与は同+5.4%と20カ月ぶりの増加。昨年4月の大幅落ち込みの裏が出たことなどが影響したと見られる。特別に支払われた給与は同+8.7%と3カ月連続の増加。また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた実質現金給与総額(実質賃金)は同+1.9%と3カ月連続の増加であった。

【内需関連】

(1) 大型小売店販売額

関西4月の大型小売店販売額(百貨店+スーパー、全店ベース)は2,652億円で前年同月比+20.9%と2カ月連続で増加した。ただし、前年4月はコロナ禍の影響もあり、その影響がない前々年(2019年)同月と比較すると、販売額は-15.2%と前月(同-10.8%)よりマイナス幅が拡大した。

大型小売店販売額のうち、百貨店は前年同月比+150.4%で、2カ月連続のプラス。前年のインバウンド消費の減少や、各社の営業時間短縮・臨時休業による売上の大幅減少の反動増となった。しかし、人流を示す後掲図表からわかるように、感染拡大と緊急事態宣言再発令により4月に小売店と娯楽施設への人流が前月より低下した。その結果、4月の前々年同月比は-36.4%となり、3月(同-20.0%)よりマイナス幅が大幅拡大している。

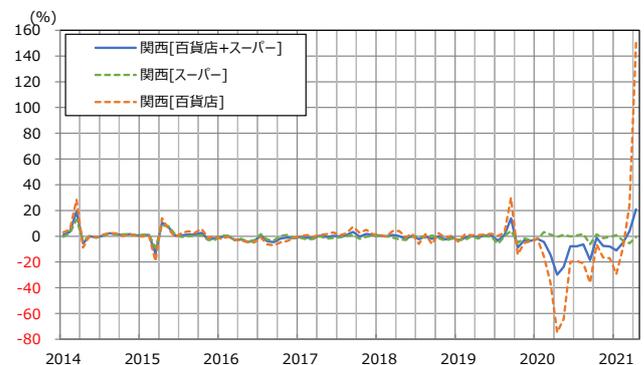
なお、5月の関西百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は前年同月比-34.5%と3カ月ぶりのマイナス。前々年(2019年)同月比で見ると、売上高は-98.1%と4月(同-83.0%)より減少幅が拡大した。緊急事態宣言下で、各社が営業時間短縮・臨時休業を続けたことにより、売上高の低下につながった。

大型小売店販売額の推移(前年同月比:2014年1月~21年4月)



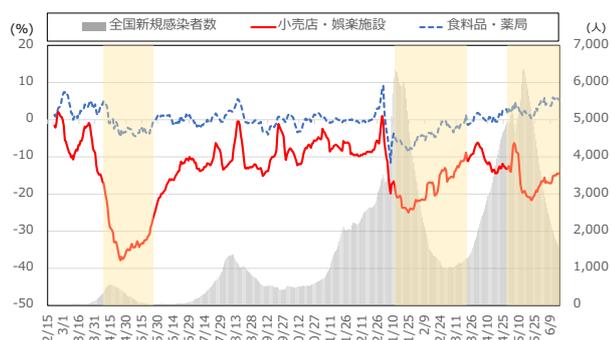
(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

業態別の推移(前年同月比:2014年1月~21年4月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

新規感染者数と人出の動態(2020年2月15日~21年6月17日)



(注1) 7日間後方移動平均。人出の増加率は基準値(2020年1月3日~2月6日の5週間の曜日別中央値)と比較した変化。

(注2) 黄色のシャドー部分は緊急事態宣言期間

(出所) Google 「コミュニティ モビリティ レポート」より

一方、スーパーは前年同月比-0.7%(前々年同月比-1.4%)と、3カ月連続の減少となった。昨年の巣ごもり需要増加の反動減と青果相場安の影響で、飲食料品は2カ月連続でマイナス(前年同月比-3.7%)となった。

全国4月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆5,527億円で、前年同月比+15.7%(前々年同月比:-6.0%)と2カ月連続の増加となった。うち、百貨店は同+153.1%(前々年同月比:-27.8%)と2カ月連続で増加した一方、スーパーは同-0.2%(前々年同月比:+3.1%)と3カ月連続で減少した。

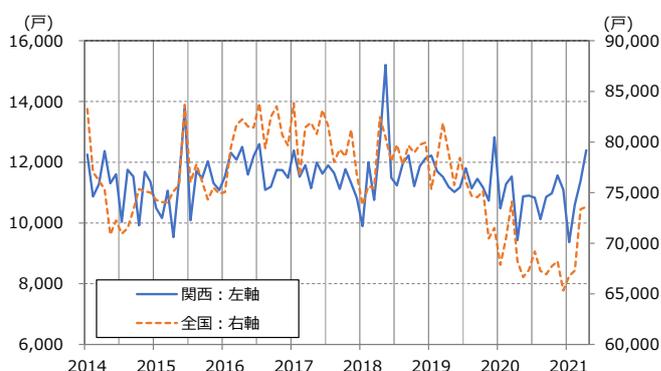
小売業販売額(季節調整値)は、前月比-4.5%と3カ月ぶりに低下。また、前月比の3カ月後方移動平均は-0.1%と3カ月ぶりに低下した。経済産業省は小売業の基調判断を「横ばい傾向にある」と前月から下方修正した。

小売店と娯楽施設への人流(コミュニティ モビリティ レポート)は、ゴールデンウィークの影響により一時増加したが、その後急減した。5月中旬に新規感染者数がピークを打ったことから、人流は下旬以降回復したが、依然として低水準である。一方、食料品店と薬局への人流はゴールデンウィーク後小幅低下したが、5月下旬以降上昇傾向に転じた。このため小売業販売額は、5月は前月から悪化するが、6月は小幅な回復が見られると予想される。

(2) 新設住宅着工

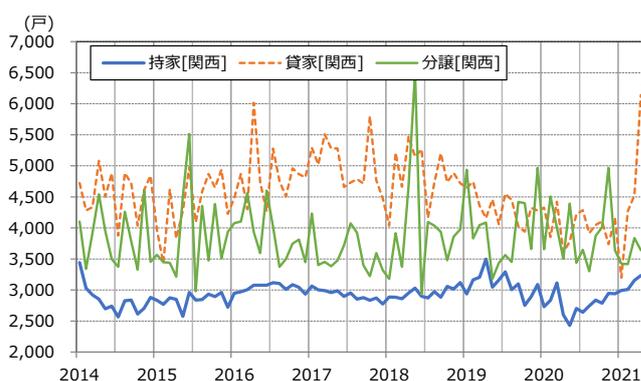
関西4月の新設住宅着工戸数(原数値)は13,182戸となり、前年同月比+31.4%と5カ月ぶりのプラス(前々年同月比+10.8%)。また、季節調整値(APIR推計)は12,396戸で、前月比+8.9%と3カ月連続で増加した。利用関係別に見ると、持家は3,233戸で同+2.5%と4カ月連続で、貸家は6,140戸で同+35.6%と3カ月連続で、それぞれ増加した。分譲は3,642戸で同-5.1%と2カ月ぶりに減少した。うち、マンションは1,641戸で同-20.1%と3カ月ぶりの減少。持家の回復と貸家の大幅な増加が全体の上昇に寄与した。

新設住宅着工戸数の推移(季節調整値 2014年1月~21年4月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

利用関係別の推移(季節調整値 2014年1月~21年4月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

全国4月の新設住宅着工戸数(原数値)は74,521戸となり、前年同月比+7.1%と2カ月連続の増加となった(前々年同月比-6.1%)。季節調整値では73,583戸となり、前月比+0.3%と4カ月連続の増加。利用関係別に見ると、貸家は28,805戸(同+3.3%)と3カ月連続の増加となった。一方、

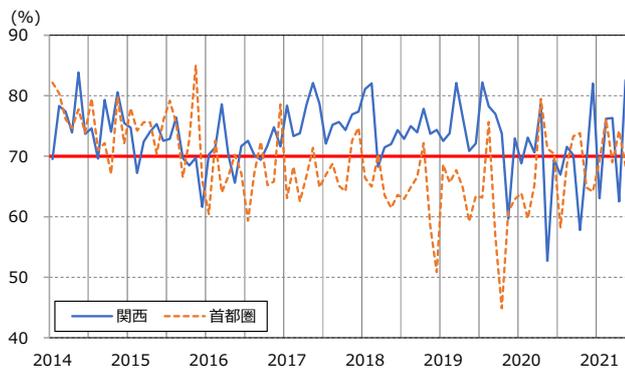
持家は23,083戸(同-1.1%)と2カ月連続で、分譲は21,359戸(同-1.7%)と2カ月ぶりに、それぞれ減少した。

(3) マンション市場動向

関西 5月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は82.6%(以下、季節調整値はAPIR推計)と、前月比+20.1%ポイントと2カ月ぶりの増加となった。好不況の境目(70%)を2カ月ぶりに上回った。契約率を府県別にみると(以下、原数値)、兵庫県下(57.7%)は低水準であったが、京都市部(96.3%)、大阪市部(80.3%)、大阪府下(71.6%)などは高水準となった。また、新規発売戸数は1,321戸(前年同月比+517.3%)と、5カ月連続で増加した。ただし、前年同月は緊急事態宣言下であったため、発売戸数(214戸)は非常に低水準であった。前々年同月と比較すると、-4.8%小幅低下した。

5月の首都圏のマンション契約率は68.4%(季節調整値)で、前月比-5.8%ポイントと2カ月ぶりの低下。好不況の境目(70%)を2カ月ぶりに下回った。また、新規発売戸数は2,578戸で前年同月比+556.0%、6カ月連続で増加した。なお、前々年同月比では+16.9%であった。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2014年1月~21年5月)



(出所) 不動産経済研究所「マンション市場動向」

(4) 建設工事

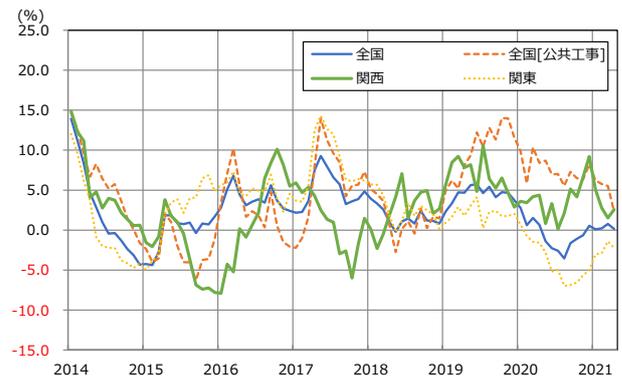
関西 4月の建設工事出来高は5,487億円の前年同月比+2.6%と37カ月連続の増加となった。関東は1兆4,173億円で同-2.2%と15カ月連続で減少した。

全国 4月の建設工事出来高は4兆285億円、前年同月比+0.2%と5カ月連続の増加。うち、公共工事は1兆6,674

億円、同+2.3%と18年9月以降32カ月連続の増加。一方、民間工事は2兆3,611億円、同-1.3%と20カ月連続の減少となった。

なお、4月分の公表時に前年度から3カ年分の値について遡及改定が行われている。

建設工事出来高の推移(前年同月比:2014年1月~21年4月)



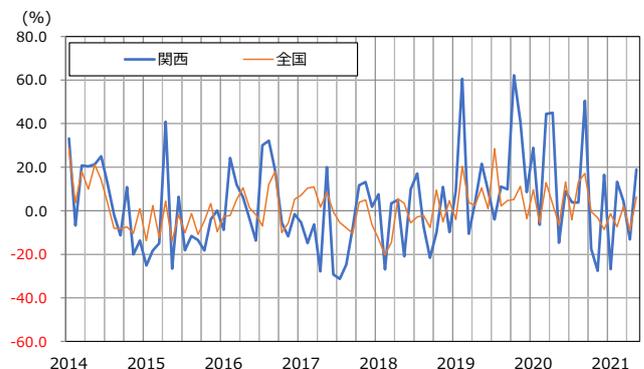
(注) 2021年4月分より遡及改訂された値を反映している
(出所)国土交通省「建設総統計」

(5) 公共工事請負金額

関西 5月の公共工事請負金額は1,436億円、前年同月比+18.9%と2カ月ぶりの増加。季節調整値(以下、APIR推計)でみると、前月比-7.5%と2カ月連続の減少となった。高速道路関連の複数の工事が増加に寄与している。

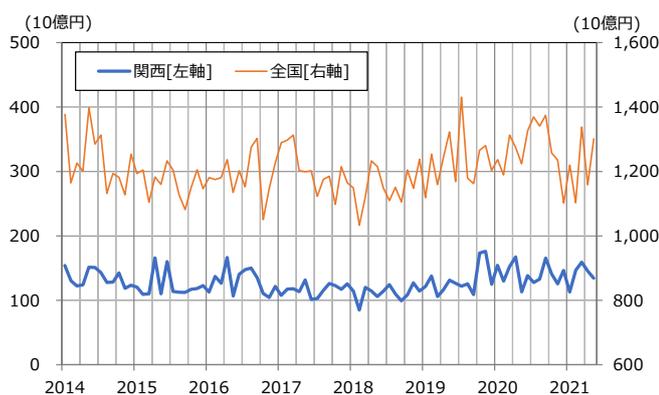
全国は1兆4,133億円、前年同月比+6.3%と2カ月ぶりの増加となった。季節調整値では前月比+12.4%と2カ月ぶりの増加であった。

公共工事請負金額の推移(前年同月比:2014年1月~21年5月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

公共工事請負金額(季調値)の推移(2014年1月~21年5月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

【センチメント】

(1) 消費者態度指数

関西 5月の消費者態度指数(季節調整値:APIR 推計)は34.2と前月比-0.3ポイント低下した。4月25日から関西2府1県に緊急事態宣言が発令された影響もあり、2カ月連続の悪化となった(前月:同-2.1ポイント)。

指数構成項目の内訳をみると、雇用環境指数(27.7)は前月比-1.7ポイント、収入の増え方指数(36.5)は同-0.1ポイント、暮らし向き指数(37.0)は同-0.1ポイント、いずれも2カ月連続の悪化。一方、耐久消費財の買い時判断指数(35.9)は同+0.6ポイントと、2カ月ぶりに改善した。

全国(季節調整値)は34.1で前月比-0.6ポイント低下し、2カ月連続で悪化した(調査基準日:5月15日)。

指数構成項目の内訳をみると、雇用環境指数(27.7)は前月比-1.4ポイント、収入の増え方指数(36.0)は同-0.6ポイント、暮らし向き指数(36.5)は同-0.4ポイントと、いずれも2カ月連続で悪化した。一方、耐久消費財の買い時判断指数(36.2)は前月から横ばいであった。内閣府は5月の基調判断を「依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる」から「持ち直しのテンポが緩やかになっている」と4カ月ぶりに下方修正した。

消費者態度指数の推移(2014年1月~21年5月)



(出所)内閣府「消費動向調査」

消費者態度指数構成項目の推移(2014年1月~21年5月)



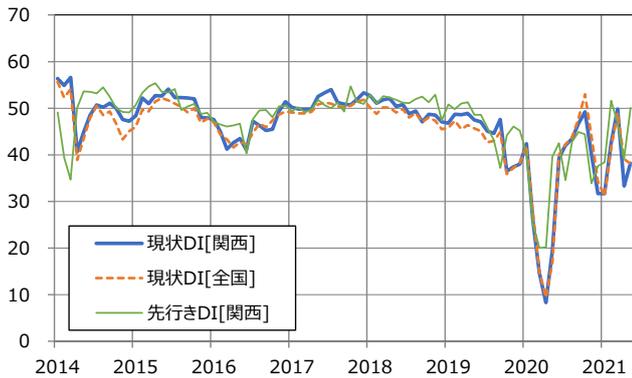
(出所)内閣府「消費動向調査」

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西 5月の景気ウォッチャー現状判断 DI(季節調整値)は38.2と前月差+4.9ポイント上昇した(前月:同-16.5ポイント、調査期間:5月25日から31日)。新規感染者数の減少や、京都府、兵庫県で5月12日以降、大型商業施設への休業要請が一部緩和されたこともあり、2カ月ぶりに改善した。一方、全国と同指数は38.1と同-1.0ポイント低下した。緊急事態宣言の対象地域が追加された影響もあり、2カ月連続で悪化した(前月:同-9.9ポイント)。

先行き判断 DI(季節調整値)は、関西は50.1と前月差+10.9ポイント上昇した。3カ月ぶりの改善で、好不況の分かれ目である「50」を上回った。また全国も47.6と同+5.9ポイント上昇し、3カ月ぶりに改善した。緊急事態宣言の解除やワクチン接種加速の期待から、小売業や飲食サービス業など対面型サービス業を中心に改善した。

景気ウォッチャー調査の推移(2014年1月～21年5月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

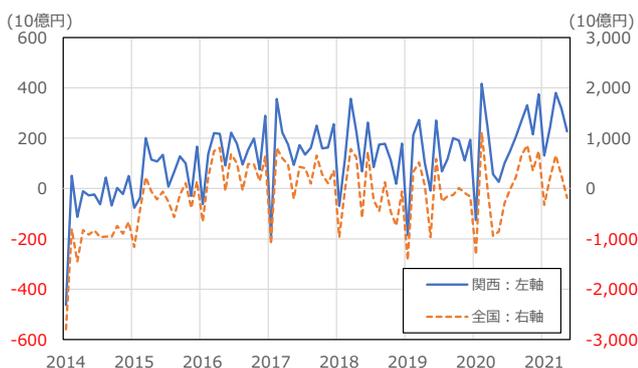
【外需関連】

(1) 貿易概況

財務省「貿易概況(速報)」によれば、関西5月の貿易収支は+2,274億円と16カ月連続の黒字。輸出は3カ月連続、輸入は4カ月連続の前年比増加となった。ただし、前々年同月(2019年5月)でみると、輸出は増加しているが、輸入は減少であった。

また、輸出入の合計である貿易総額は前年同月比+23.8%と5カ月連続の増加となっている。

関西・全国の貿易収支の推移(2014年1月～21年5月)



(出所) 大阪税関調査統括課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(2) 輸出

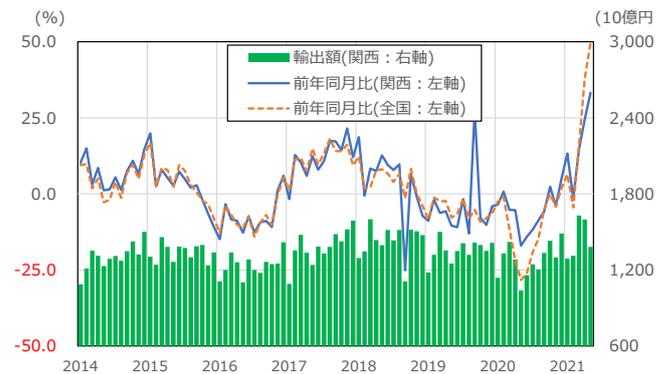
関西5月の輸出額(速報)は1兆3,832億円で前年同月比+33.2%と3カ月連続の増加となった(前月：同+24.5%)。なお、前々年同月比は+10.6%であり、堅調な伸びが続いている。財別にみれば、主に建設用・鉱山用機械、遊戯用具等

が増加した。

日銀の「実質輸出入」によれば、5月の実質輸出(速報)は123.5(季節調整値、2015年平均=100)で前月比+0.1%となり、3カ月連続の上昇となった(前月：同+6.5%)。

全国5月の輸出額(速報)は6兆2,613億円で、前年同月比+49.6%と3カ月連続の増加(前々年同月比：+7.3%)。主に自動車、自動車の部分品、鉄鋼等が増加した。

関西・全国の輸出の推移(2014年1月～21年5月)



(出所) 大阪税関調査統括課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(3) 輸入

関西5月の輸入額(速報)は1兆1,558億円で、前年同月比+14.2%と4カ月連続の増加(前々年同月比：-8.2%)。主に医薬品、衣類及び同附属品等が増加した。

また、5月の実質輸入(速報)は98.5(季節調整値、2015年平均=100)で前月比-3.2%となり、2カ月ぶりの低下となった(前月：同+3.0%)。

関西・全国の輸入の推移(2014年1月～21年5月)



(出所) 大阪税関調査統括課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

全国5月の輸入額(速報)は6兆4,484億円で、前年同月比+27.9%と4カ月連続の増加であった(前々年同月比:-5.2%)。原油、医薬品、非鉄金属等が増加した。

(4) 地域別貿易

関西5月の貿易収支を地域別にみると、対アジア(含む中国)向け輸出額(9,358億円)は前年同月比+26.1%と6カ月連続の増加。一方、輸入額(6,797億円)は同+9.3%と2カ月ぶりの増加となった。結果、対アジアの貿易収支は+2,561億円と16カ月連続の黒字となった(同+112.5%)。輸出増に寄与した品目は半導体等製造装置、非鉄金属等であった。輸入増に寄与した品目は衣類及び同附属品、通信機等であった。

対中輸出額(3,636億円)は前年同月比+15.5%と12カ月連続の増加。一方、輸入額(3,801億円)は同-2.1%と2カ月連続の減少。結果、対中貿易収支は-165億円と2カ月連続の赤字となった(同-77.6%)。輸出増に寄与した品目は、半導体等製造装置、原料品等であった。輸入減に寄与した品目は織物用糸及び繊維製品、事務用機器等であった。昨年5月にマスク需要の増加から織物用糸及び繊維製品が大幅に増加した反動と考えられる。

対米輸出額(1,897億円)は前年同月比+66.0%と3カ月連続の増加。また、輸入額(1,137億円)は同+20.0%と3カ月連続の増加。結果、対米貿易収支は+760億円の黒字となった(同+286.6%)。輸出の増加に寄与した品目は、遊戯用具、建設用・鉱山用機械等であった。うち、建設用・鉱山用機械については、大きく落ち込んだ昨年の裏が出ている。一方、輸入の増加に寄与した品目は医薬品、天然ガス及び製造ガス等で、前月に引き続き高い伸び率を示している。

対EU(英国を除く27カ国ベース)輸出額(1,402億円)は前年同月比+45.2%と3カ月連続の増加。また、輸入額(1,557億円)は同+40.9%と5カ月連続の増加。対EU貿易収支は-154億円と5カ月連続の赤字であった(前年同月差-15.4億円)。輸出の増加に寄与した品目は、遊戯用具、重電

機器等であった。一方、輸入の増加に寄与した品目は医薬品、たばこ等で、前月に引き続き高い伸び率を示している。

(5) 関空の出入国者数

法務省「出入国管理統計(速報値)」によれば、5月の関空経由の外国人入国者数は2,001人で、前月(2,341人)から減少した。外国人の入国制限が厳格化されて以降、入国者数は低水準が続いている。伸びはコロナ禍の影響のない前々年同月(2019年5月)と比べると-99.7%となっており、大幅減少が続く。政府は6月以降も、入国制限を継続しているため、入国者数は当面の間、底這いでの推移が続こう。

日本人出国者数は2,902人で前月(2,965人)から小幅減少し、外国人入国者と同様、低水準が続いている。

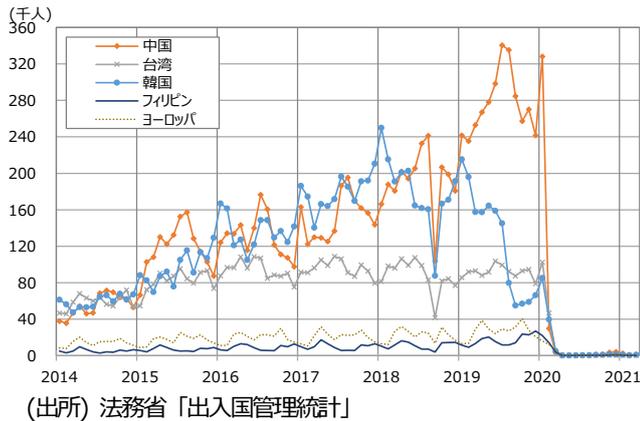
訪日外客数と出国日本人数の推移(2014年1月~21年5月)



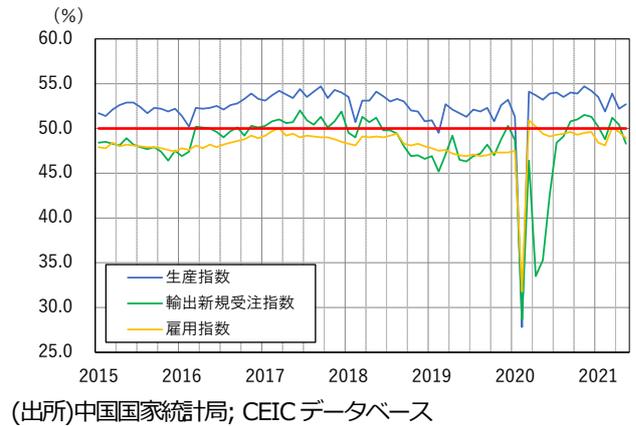
(出所) 法務省「出入国管理統計」

国籍別・地域別にみれば(出入国管理統計月報)、3月の関空訪日外客の総数は3,129人であった。前月(1,881人)から幾分増加したものの、低水準が続く。伸び率は、前年3月のコロナ禍の影響が含まれるため、影響のない前々年同月(2019年3月)と比べると、-99.6%と大幅減少が続く。上位5カ国・地域をみれば、中国からの入国者が901人(前々年同月比-99.6%)と最多であった。次いで韓国が702人(同-99.6%)、台湾が199人(同-99.8%)、ヨーロッパが198人(同-99.3%)、フィリピンが119人(同-99.1%)であった。

地域別訪日外客数(2014年1月~21年3月まで)



製造業購買担当者景況指数(2015年1月~21年5月)



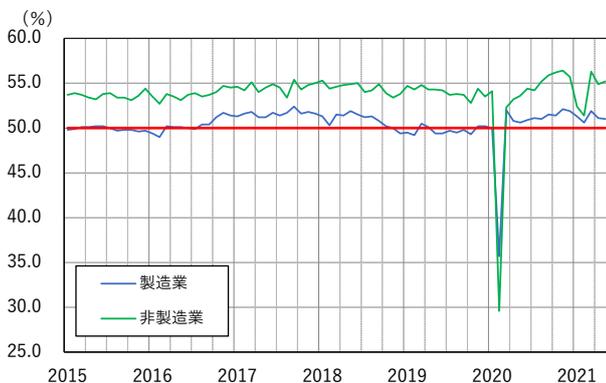
【中国景気モニター】

(1) センチメント

5月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は51.0%と、15カ月連続で景気分岐点(50)を上回ったが、前月から-0.1%ポイント低下し、2カ月連続の悪化であった。また、非製造業PMIは55.2%と、同+0.3%ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善であった。

製造業PMIのうち、生産指数は52.7%と前月から+0.5%ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。輸出新規受注指数は48.3%と同-2.1%ポイント低下し、3カ月ぶりに景気分岐点を下回った。雇用指数は48.9%と同-0.7%ポイント低下し、2カ月連続の悪化であった。

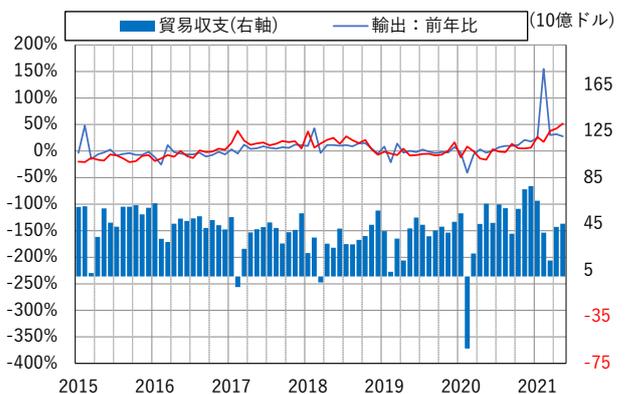
製造業・非製造業購買担当者景況指数(2015年1月~21年5月)



(2) 貿易動向

5月の貿易収支は、455.4億ドルで、15カ月連続の黒字となったが、4カ月連続で前年比縮小している(前年同月比-27.6%)。輸出額(速報値, ドル・ベース)は、2,639.2億ドルで、同+27.6%増加した(前月:同+31.8%)。また、輸入額は、2,183.8億ドルで、同+51.8%増加した(前月:同+42.7%)。貿易総額(輸出+輸入)は、同+37.5%と12カ月連続で拡大した。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2015年1月~21年5月)



【地域別貿易状況】

地域別にみると、5月の対日貿易収支は-35.3億ドル(4月:-36.9億ドル)で、3カ月連続の赤字となった。対日輸出額は139.2億ドルとなり、前年同月比+5.0%と8カ月連続の増

加。対日輸入額は166.5億ドルとなり、同+33.6%と9カ月連続の増加であった。

対韓貿易収支は-46.2億ドル(4月:-50.4億ドル)の赤字となった。対韓輸出額は125.1億ドルで前年同月比+29.9%と11カ月連続の増加。対韓輸入額は171.2億ドルとなり、同+31.9%と9カ月連続の増加であった。

対ASEAN貿易収支は60.6億ドル(4月:97.2億ドル)の黒字となった。対ASEAN輸出額は391.9億ドルで前年同月比+40.6%と12カ月連続の増加。対ASEAN輸入額は331.3億ドルで同+53.8%と12カ月連続の増加であった。

対米貿易収支は317.8億ドル(4月:281.1億ドル)の黒字となった。対米輸出額は448.9億ドルで前年同月比+20.6%と12カ月連続で増加した。また、対米輸入額は131.1億ドルで、同+40.5%と12カ月連続の増加であった。

対EU貿易収支は126.7億ドル(4月:131.2億ドル)の黒字となった。対EU輸出額は399.2億ドルで前年同月比+12.6%と7カ月連続の増加。また、対EU輸入額は272.5億ドルとなり、同+57.7%と9カ月連続で増加した。

貿易総額シェアのトップ3であるASEAN(15.0%)、EU(13.9%)、米国(11.6%)の動向をみると、貿易総額はASEAN(前年同月比+46.3%)と米国(同+24.6%)は12カ月連続、EU(同+27.4%)は7カ月連続で、それぞれ拡大した。

(3) 工業生産

5月の工業生産は前月比+0.52%上昇し、伸びは前月と横ばい。また、前年同月比では+8.8%上昇したが、伸びは前月(同+9.8%)から-1.0%ポイント低下した。

産業別に見ると、5月は医薬製造業(前年同月比+34.0%)、金属製品製造業(同+19.2%)、電気機械・機材製造業(同+18.7%)などが高い伸びを示した。一方、食品製造業(同+3.6%)、有色金属圧延加工業(同+2.9%)、自動車製造業(同+0.5%)などは比較的低い伸びにとどまった。なお、繊維工業は前年同月比-3.0%減産となった。

工業生産指数(2015年1月~21年5月)



(注)各年の1-2月は統計が未公表のため線形補完を行っている
(出所)中国国家統計局; CEICデータベース

(4) 固定資産投資

1-5月期の累積固定資産投資(名目)は前年比+15.4%となり、1-4月期から-4.5%ポイント減速した。

産業別にみると、第1次産業は前年比+28.7%増加したが、伸びは1-4月期(同+35.5%)から減速した。第2次産業は同+18.1%増加したが、伸びは1-4月期(同+21.7%)から減速した。第3次産業は同+13.8%増加したが、伸びは1-4月期(同+18.7%)から減速した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2015年1月~21年5月)



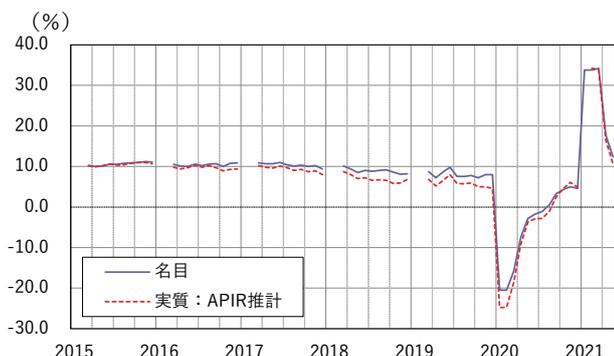
(出所)中国国家統計局; CEICデータベース

(5) 消費

5月の社会消費品小売総額(名目)は3.60兆円で前年同月比+12.4%増加した(前月:同+17.7%)。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR推計)をみると、同+10.55%と9カ月連続で増加した。

うち、電子商取引の小売総額は1.06兆円で、前年同月比+11.8%と15カ月連続の増加。電子商取引が社会消費品小売総額全体に占めるシェアは29.5%となり、前年同月差-0.2%ポイントと5カ月連続で低下した。

社会消費品小売総額(2015年1月~21年5月)

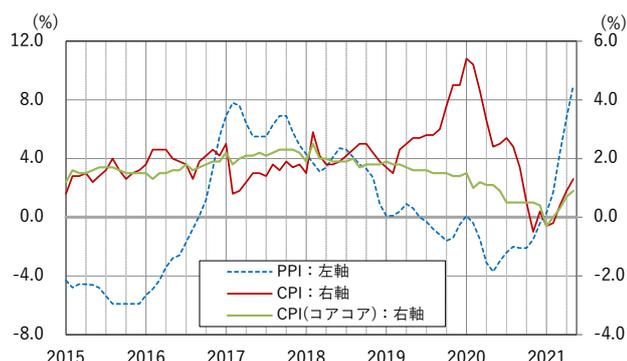


(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

5月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+1.3%と3カ月連続のプラス。伸びは前月から0.4%ポイント上昇した。一方、食料・エネルギーを除く消費者物価コアコア指数は同+0.9%と3カ月連続のプラス。伸びは前月から0.2%ポイント上昇した。

消費者物価指数・生産者物価指数(2015年1月~21年5月)



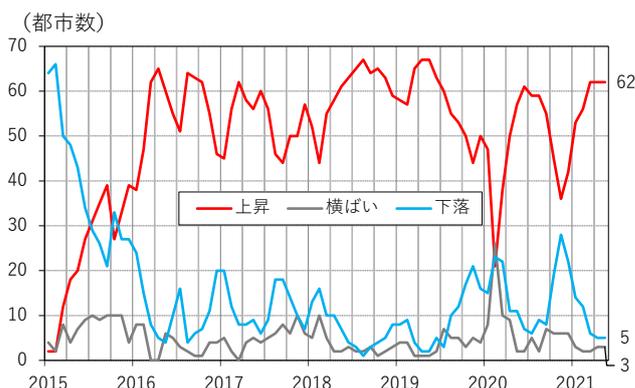
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

また、生産者物価指数(PPI)は前年同月比+9.0%と5カ月連続のプラス。プラス幅は前月から2.2%ポイント拡大した。国際商品市況(資源価格)の高騰を受け、3月以降、加速が目立っている(3月:同+4.4%、4月:同+6.8%)。

(7) 不動産市場

5月の不動産市場は回復が続いている。新築住宅価格をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は62で前月と横ばい。一方、下落した都市数は5で前月と横ばい。また、横ばいの都市数は3で前月と同じ水準である。

主要70都市新築住宅価格動向(2015年1月~21年5月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(8) 今月の中国経済レビュー

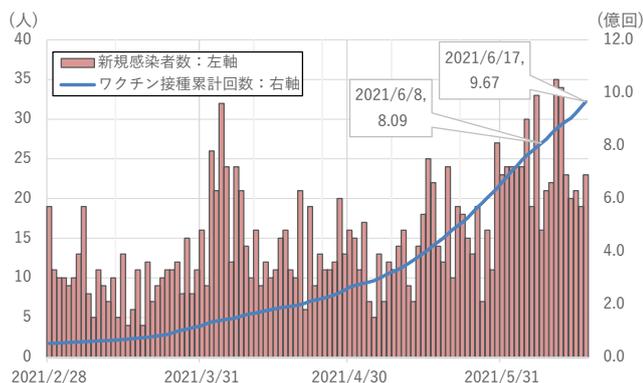
足下の世界経済は、多くの国でワクチン接種の加速によって景気が回復している一方、変異株による感染の再拡大が懸念されている。また、テレワークや巣ごもり消費などによって情報機器や家電の需要が急増する中、世界的に半導体不足が続き、自動車製造業などにも影響が及んでいる。さらに、この数ヶ月続いている国際商品市況の高まりや国際物流の問題などのため、輸入型の製造・加工業はコスト上昇の圧力に直面している。

こうした状況を受け、5月の中国では、輸出と輸入ともに伸びが減速している。また、製造業 PMI、非製造業 PMI、工業生産指数などの指標は前月から幾分回復した。ワクチン生産の活発な動きを受けて医薬品製造業は高い伸びが続いている。また、ワクチン接種が順調に進んでいるため、サービス業の回復が加速している。社会消費品小売総額は前月から伸びが鈍化した。2桁増の底堅い動きが続いている。

ワクチン接種を巡る中国の最新の動向をみれば、中国の COVID-19 新規感染者数は毎日数十名程度にとどまっている。

なお、5月下旬に広東省で変異株感染が発見され、小規模な市中感染が発生した。中国国家衛生健康委員会の公表データによれば、6月17日時点で中国全土のCOVID-19 ワクチン接種回数は9.67億回で、一日あたり接種数は2,000万回程度である。

中国 COVID-19 感染とワクチン接種動向(2021年3月～6月17日)



(出所)中国国家衛生健康委員会; CEIC データベース

現在、中国では3種類のワクチンが承認されている。それぞれ、ウイルスベクターワクチン(カンシノ製、1回接種)、不活化ワクチン(シノファーム製、シノバック製、2回接種)、サブユニットワクチン(重慶ジーフェイ製、3回接種)である。うち、シノバック製とシノファーム製の不活化ワクチンはWHOの緊急使用リストに登録され、多くの国において使用されている。また、5月から、米モデルナとファイザーと同じ技術を使用した mRNA ワクチン(雲南沃森生物製)の後期臨床試験(第3段階)がメキシコで行われている。

Contact : 木下祐輔・野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	20/6M	20/7M	20/8M	20/9M	20/10M	20/11M	20/12M	21/1M	21/2M	21/3M	21/4M	21/5M
生産												
[関西]鉱工業生産(季節調整値、15年=100)	83.1	89.1	88.7	90.8	92.5	95.7	91.1	99.6	100.4	96.8	98.0	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	3.0	7.2	-0.4	2.4	1.9	3.5	-4.8	9.3	0.8	-3.6	1.2	UN
[関西]出荷指数(季節調整値、15年=100)	83.1	89.2	88.1	91.3	96.8	97.6	91.4	97.5	97.8	94.8	97.5	UN
[関西]出荷指数(季節調整値、前月比)	7.1	7.3	-1.2	3.6	6.0	0.8	-6.4	6.7	0.3	-3.1	2.8	UN
[関西]在庫指数(季節調整値、15年=100)	101.2	98.3	96.1	96.8	95.1	94.0	94.7	94.6	95.3	97.6	95.3	UN
[関西]在庫指数(季節調整値、前月比)	-3.6	-2.9	-2.2	0.7	-1.8	-1.2	0.7	-0.1	0.7	2.4	-2.4	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、15年=100)	81.0	86.6	88.3	91.6	93.5	94.2	94.0	96.9	95.6	97.2	100.0	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	4.9	6.9	2.0	3.7	2.1	0.7	-0.2	3.1	-1.3	1.7	2.9	UN
[全国]出荷指数(季節調整値、15年=100)	81.1	85.4	87.4	90.7	92.7	93.5	92.9	95.6	94.4	94.8	97.7	UN
[全国]出荷指数(季節調整値、前月比)	6.9	5.3	2.3	3.8	2.2	0.9	-0.6	2.9	-1.3	0.4	3.1	UN
[全国]在庫指数(季節調整値、15年=100)	100.8	99.5	98.6	97.6	96.6	95.4	96.0	95.1	94.4	94.8	94.7	UN
[全国]在庫指数(季節調整値、前月比)	-1.8	-1.3	-0.9	-1.0	-1.0	-1.2	0.6	-0.9	-0.7	0.4	-0.1	UN
労働												
[関西]完全失業率(季節調整値)	2.9	3.1	3.1	3.1	3.2	3.3	3.4	3.4	3.2	2.8	3.3	UN
[関西]完全失業率(原数値)	3.1	3.2	3.2	3.3	3.3	2.9	3.1	3.2	3.2	2.9	3.3	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.8	2.9	3.0	3.0	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.6	2.8	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.14	1.09	1.04	1.03	1.02	1.02	1.01	1.05	1.06	1.05	1.04	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.12	1.09	1.05	1.04	1.04	1.05	1.05	1.10	1.09	1.10	1.09	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	1.86	1.78	1.93	2.13	1.87	2.08	2.09	2.13	1.97	2.07	1.92	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	1.71	1.70	1.83	1.97	1.84	2.04	2.11	2.03	1.88	1.99	1.82	UN
[関西]名目現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	-3.8	-2.6	-2.9	-1.5	-1.7	-1.3	-3.7	-0.7	-0.0	1.1	UN	UN
[関西]実質現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	-4.1	-3.1	-3.2	-1.7	-1.4	-0.3	-2.3	0.0	0.5	1.4	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	-2.0	-1.5	-1.3	-0.9	-0.7	-1.8	-3.0	-1.3	-0.4	0.6	1.4	UN
小売												
[関西]大型小売店販売額(10億円)	293.7	304.7	297.4	275.2	288.7	297.2	372.9	289.5	265.2	293.1	265.2	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	-7.8	-7.8	-6.3	-18.6	-1.2	-7.5	-8.0	-11.0	-4.9	4.0	20.9	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,678.9	1,691.9	1,688.2	1,568.0	1,630.3	1,678.1	2,103.6	1,628.4	1,496.9	1,670.1	1,552.7	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	-2.3	-3.2	-1.2	-12.8	4.0	-3.2	-3.3	-5.8	-3.3	2.8	15.7	UN
住宅・建設												
[関西]新設住宅着工(原数値、戸数)	10,982	11,782	9,716	11,318	11,061	12,102	10,453	8,720	10,324	11,497	13,182	UN
[関西]新設住宅着工(原数値、前年同月比%)	-3.0	-8.3	-9.5	-4.5	-2.2	7.9	-13.2	-10.6	-6.0	-1.3	31.4	UN
[全国]新設住宅着工(原数値、戸数)	71,101	70,244	69,101	70,186	70,685	70,798	65,643	58,448	60,764	71,787	74,521	UN
[全国]新設住宅着工(原数値、前年同月比%)	-12.8	-11.3	-9.1	-9.9	-8.3	-3.7	-9.0	-3.1	-3.7	1.5	7.1	UN
[関西]新設住宅着工(季節調整値、戸数)	10,905	10,833	10,127	10,857	10,978	11,565	11,098	9,367	10,608	11,380	12,396	UN
[関西]新設住宅着工(季節調整値、前月比%)	0.2	-0.7	-6.5	7.2	1.1	5.3	-4.0	-15.6	13.2	7.3	8.9	UN
[全国]新設住宅着工(季節調整値、戸数)	67,341	69,186	67,257	66,928	67,724	68,210	65,328	66,757	67,299	73,359	73,583	UN
[全国]新設住宅着工(季節調整値、前月比%)	1.1	2.7	-2.8	-0.5	1.2	0.7	-4.2	2.2	0.8	9.0	0.3	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	69.4	66.9	71.6	70.2	57.8	69.0	82.0	63.0	76.2	76.3	62.5	82.6
[関西]マンション契約率(原数値)	70.4	67.4	78.2	69.2	58.0	69.3	80.0	61.2	78.5	74.8	62.0	78.3
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	70.4	58.2	68.7	73.3	73.8	64.8	64.1	69.2	76.2	69.0	74.2	68.4
[首都圏]マンション契約率(原数値)	73.2	62.4	68.5	73.4	70.4	58.1	62.6	68.1	76.0	73.6	73.6	69.3
[関西]建設工事(総合、10億円)	540.2	543.3	558.3	598.0	610.8	641.8	677.7	658.1	639.2	628.5	548.7	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	3.3	0.1	2.1	5.1	4.2	6.6	9.2	5.1	2.8	1.5	2.6	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,036.4	4,158.2	4,341.5	4,662.2	4,879.6	4,978.3	5,091.5	5,001.8	4,859.0	4,941.5	4,028.5	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	-2.3	-2.6	-3.6	-1.6	-1.1	-0.6	0.5	0.1	0.2	0.8	0.2	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1,659.7	1,741.8	1,892.6	2,151.4	2,339.3	2,435.5	2,543.2	2,498.1	2,394.5	2,481.6	1,667.4	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	7.0	7.0	5.5	7.3	6.5	6.3	8.2	6.2	5.8	5.5	2.3	UN
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	160.4	140.6	109.9	180.6	156.2	96.5	111.3	67.3	84.8	165.0	277.8	143.6
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	9.0	3.9	3.7	50.5	-17.6	-27.6	16.5	-26.8	13.3	4.5	-13.2	18.9
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,638.6	1,543.2	1,300.9	1,493.2	1,342.6	881.4	734.5	632.8	648.5	1,515.6	2,094.0	1,413.3
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	13.2	-4.1	13.2	17.1	-0.4	-3.3	-8.6	-1.4	-7.3	1.9	-9.2	6.3
消費者心理												
[関西]消費者態度指数(季節調整値)	29.0	28.7	29.3	32.7	32.5	31.8	30.0	28.5	33.4	36.6	34.5	34.2
[関西]暮らし向き(季節調整値)	31.5	31.1	31.7	35.9	34.9	34.6	33.1	30.8	36.4	39.0	37.2	37.0
[関西]収入の増え方(季節調整値)	31.3	31.8	31.9	34.5	34.3	33.8	33.2	32.1	35.1	37.3	36.7	36.5
[関西]雇用環境(季節調整値)	21.9	21.0	21.3	24.4	25.6	25.4	21.1	20.6	26.3	31.4	29.4	27.7
[関西]耐久消費財の買い時判断(季節調整値)	31.4	31.2	32.4	34.4	34.7	33.6	32.3	30.3	35.7	39.5	35.3	35.9
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	28.3	29.5	29.4	32.6	33.5	33.5	32.0	29.9	33.9	36.1	34.7	34.1
景況感												
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	39.3	42.0	43.4	46.7	49.2	39.9	31.7	31.7	42.4	49.8	33.3	38.2
[関西]景気ウォッチャー調査(先行DI、季節調整値)	42.5	34.6	42.8	44.9	44.4	33.9	37.6	38.4	51.6	46.9	39.2	50.1
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	40.0	42.2	43.7	47.8	53.0	43.8	34.3	31.2	41.3	49.0	39.1	38.1
[全国]景気ウォッチャー調査(先行DI、季節調整値)	44.6	36.7	42.9	47.1	47.7	35.0	36.1	39.9	51.3	49.8	41.7	47.6
国際貿易												
[関西]純輸出(10億円)	100.6	149.0	206.2	269.9	330.8	215.3	375.0	130.6	241.8	379.7	316.8	227.4
[関西]輸出(10億円)	1,159.7	1,244.5	1,204.9	1,333.9	1,430.7	1,298.1	1,487.4	1,289.1	1,311.6	1,630.0	1,597.5	1,383.2
[関西]輸出(前年同月比%)	-14.1	-11.8	-8.7	-5.7	2.3	-4.0	5.2	13.3	-1.4	14.6	24.5	33.2
[関西]輸入(10億円)	1,059.0	1,095.5	998.6	1,063.9	1,099.9	1,082.9	1,112.5	1,158.5	1,069.8	1,250.3	1,280.7	1,155.8
[関西]輸入(前年同月比%)	-1.9	-18.4	-16.8	-12.4	-8.9	-12.7	-8.9	-8.3	17.1	6.3	4.5	14.2

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

【Release Calendar】

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
24-May 実質輸出入 (4月) 百貨店免税売上 (4月)	25-May 出入国管理統計 (3月)	26-May 近畿地域 鉱工業生産動向 (3月:確報)	27-May	28-May 労働力調査 (4月) 一般職業紹介状況 (4月) 毎月勤労統計調査 (3月:確報) 全国貿易統計 (3月:確報) 全国貿易統計 (4月:確・速報)
31-May 全国鉱工業指数 (4月:速報) 商業動態統計 (4月:速報) 建築着工統計調査 (4月) 消費動向調査 (5月) 中国 PMI (5月)	1-Jun	2-Jun	3-Jun	4-Jun
7-Jun 毎月勤労統計調査 (4月:速報) 百貨店・スーパー販売 状況(4月:速報)	8-Jun 景気ウォッチャー調査 (5月)	9-Jun 中国 CPI (5月)	10-Jun 近畿圏貿易概況 (3月:確報) 近畿圏貿易概況 (4月:確・速報)	11-Jun
14-Jun 全国鉱工業指数 (4月:確報) 近畿地域 鉱工業生産動向 (4月:速報)	15-Jun 商業動態統計 (4月:確報) 公共工事前払保証額 統計(5月) 出入国管理統計 (5月:速報)	16-Jun 近畿圏貿易概況 (5月:速報) 全国貿易統計 (5月:速報) 中国工業生産(5月) 中国固定資産投資 (5月) 中国消費小売総額 (5月)	17-Jun マンション市場動向 (5月) 建設総合統計 (4月) 中国不動産市場 (5月)	18-Jun 実質輸出入 (5月)
21-Jun	22-Jun 毎月勤労統計調査 (4月:確報) 百貨店免税売上 (5月)	23-Jun	24-Jun	25-Jun 出入国管理統計 (4月)*

*印は発表予定日が未定。